

# 会 議 録

会 議 の 名 称	令和2年度 新座市子どもの放課後居場所づくり事業 運営委員会（第2回）
開 催 日 時	令和2年11月19日(木) 午前10時から午前11時30分まで
開 催 場 所	市役所第二庁舎1階 会議室2
出 席 者	金子 廣志 坂口 智 田中 幸恵 赤川 治男 石田 和子 結城 美千代 小林 千枝子 平松 諒 保戸田 雅之 原 三千男 高野 章 藤田 俊介 寺島 宏則 谷 眞弓 渡辺 哲也 小関 直 大井 敏彰 生田目 真一 金子 啓一  <div style="text-align: right;">計19名</div>
事 務 局 職 員	生涯学習スポーツ課 渡邊係長、藤田主任、葛西主事、向山主事、福田主事、五味主事
会 議 内 容	1 開会 2 挨拶 3 議事 (1) 子どもの放課後居場所づくり事業運営状況について (2) 子どもの放課後居場所づくり事業アンケート実施及び結果について (3) 子どもの放課後居場所づくり事業実施要綱改正（案）について (4) その他 4 閉会
会 議 資 料	・次第資料 ・委員名簿

その他の事項	特になし
--------	------

審 議 の 内 容 (審議経過、結論等)
<p>1 開会 (五味主事)</p> <p>2 挨拶 (金子教育長)</p> <p>○ 10月1日付の人事異動による事務局職員の紹介</p> <p>3 議事 (運営委員会設置要綱第7条により金子委員長が議事進行)</p> <p>(1) 子どもの放課後居場所づくり事業運営状況について資料1 (説明: 藤田主任)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、3密対策、活動場所や遊具等の消毒及び児童の参加自粛依頼等を行った。既存校は6月15日から活動を開始した。片山・野火止・池田・陣屋ココフレンドは7月16日に新規開設をした。</li> <li>・ 在籍児童の4割～5割がココフレンドに登録している。昨年度と比べ多くのココフレンドで、登録児童数が1割以上減少している。西堀及び新座ココフレンドは2割の減少である。</li> <li>・ 日々の参加人数は、平均15名～20名である。野寺・八石・栄・池田・ココフレンドは10名以下の参加である。昨年は20名～70名程度の参加があった。</li> <li>・ 八石・栄・新座ココフレンドでは、10月20日から参加制限を解除した。登録児童が少ないココフレンドであるため、参加人数の大幅な増加はしていない状況である。</li> <li>・ 新堀ココフレンドは、3学期から参加制限を解除する予定となっている。その他のココフレンドは、2月1日(月)から週に1回程度、参加制限を行わない曜日を設けて運営する予定である。</li> <li>・ 夏休みの参加人数は、平均15～20名程度であった。今年度から全ココフレンドで午後の時間帯も開設している。</li> <li>・ 参加状況から、保護者や児童に参加自粛の御協力をいただいていることが窺える。</li> </ul> <p>○各ココフレンドの活動状況報告 (新堀、栗小、西堀、陣屋ココフレンドについては、コーディネーターから報告、東野、石神、東北、四小、野寺、新開、大和田、八石、栄、新座、片山、野火止、池田ココフレンドについては、事前にいただいた報告を資料に掲載)</p> <p>〈新堀ココフレンド〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加人数は、曜日によって異なるが平均10名～20名程度である。参</li> </ul>

加自肅への保護者の協力が得られていた。

- ・ 例年に比べ子どもたちの活動の幅が狭くなっている。高学年の参加が少ないこともあり、異学年との交流が例年に比べ少ない傾向にある。
- ・ 例年に比べ、工作をする子どもが少ないようだ。スタッフが空き箱等工作の材料を持参するが、十分に活用されていない状況である。
- ・ スタッフは、子どもたちに思い切り身体を動かし、汗を流して遊んでほしいと期待しているが、スタッフの期待と子どもたちの様子には開きがある。
- ・ 高齢のスタッフが多いため、健康管理に気を配っている。スタッフは室内の衛生管理や消毒作業を率先して行っている。

#### 〈栗小ココフレンド〉

- ・ 全児童数の約5割に当たる206名が登録をしている。日々の参加児童数は20名前後である。1年生や転入生の参加が多いことや、放課後児童保育室を辞めてココフレンドへ参加する4年生の児童が多いことが特徴のひとつである。
- ・ スタッフの個性を生かした工作や折り紙を紹介し、子どもたちを楽しませている。算数プリント等新しいものを取り入れ、子どもたちが意欲的に学習に取り組めるよう工夫している。
- ・ 昨年度と同様に、冬休みの書初めの宿題をする場所を用意する予定である。
- ・ バドミントンは、安全上の問題で、当面の間は学年を問わず禁止としている。

#### 〈西堀ココフレンド〉

- ・ 登録者数は、昨年度は216名だったが、今年度は140名程度と減少している。
- ・ 放課後児童保育室との二重登録の児童は、昨年度は29名、今年度は14名である。日々の参加は、1～3年生が17名程度である。
- ・ 今後、体調不良等でスタッフに急な欠員が出た場合は、事務局の指示を仰ぐことになる。子どもが体調不良の際は、今まで以上に気を使っている。
- ・ 学校と放課後児童保育室との三者で毎月1回、話合いの場を設けている。放課後児童保育室、ココフレンド、学校のルールの徹底が難しく、ずれが生じているため、子どもたちが活動しやすいように、連絡調整を図っていききたい。
- ・ 学習の時間は定着しているが、低学年は30分以上継続するのが難しく、塗り絵等を行っている。
- ・ 遊びの種類が少なく、大多数の子どもが体育館でドッジボールをしている。
- ・ 昨年度ココフレンドスタッフルームは3階にあったが、学校の御配慮で、今年度から1階に移動した。保護者からも好評で、活動もしやすくなった。
- ・ 空気清浄機を配備してもらった。スタッフが加湿空気清浄機を1台持ってきてくれた。非常に役に立っている。

#### 〈陣屋ココフレンド〉

- ・ 少人数ならではの遊びや学習ができているため、子どもたちは満たされた様子である。
- ・ 平均参加人数は10～20名前後であるが、さらに10名程度の増員は可能なのではと考えている。2教室使用できることもある。
- ・ 参加人数が少なく、個別指導に近い状態だが、それを必要としている児

童が集まっている印象である。

- ・ 宿題を進んでできなかった児童が、ココフレンドに来ると自ら取り組むようになり、スタッフの励みになっている。スタッフは手作りの教材準備にも意欲的である。
- ・ スタッフの働く意欲をシフトに反映することが難しく、シフト作成に苦労した。曜日を固定する等工夫している。
- ・ 新型コロナウイルス感染症で大変な面もあるが、子どもの様子をよく見て、工夫して活動していきたい。

**委員** 西堀ココフレンドでは、ドッジボールが人気であるとのことだが、安全管理や新型コロナウイルス感染症対策はどのようにしているか。

**コーディネーター**

- ・ 子どもたちがボールに群がることのないよう、その都度子どもに話をさせ、審判はスタッフがするなど安全管理に努めた。
- ・ 熱中症対策のため、時間を決め、適宜休憩を取り、水分補給をするなどした。
- ・ 大声を出さない、手洗い、うがい等を徹底するなどして新型コロナウイルス感染症対策を行った。
- ・ バドミントンとドッジボールを同時にする場合は、ボールを投げる方向を指導し、安全に配慮した。

**委員長** 寒くなると換気が疎かになりがちだ。換気やマスクの着用等の感染症対策を引き続き行ってほしい。

(2) 子どもの放課後居場所づくり事業アンケート実施及び結果について **資料2**  
(説明：向山主事、福田主事) (資料16～29頁)

○ 保護者向けアンケートについて

- ・ ココフレンド事業を更に充実させるための参考資料とする目的で、9月30日～10月9日の期間に、保護者及びコーディネーター・スタッフを対象に、全ココフレンドにアンケートを行った。
- ・ ココフレンドへ登録はしているが、参加していない児童が約5割いた。昨年度の14%と比較し大幅に増加している。新型コロナウイルス感染症の影響で参加の自粛をお願いしたことや、各家庭の協力により参加を控えていること等が要因と推測できる。
- ・ 「参加の自粛依頼をしなかった場合、参加させたいか」という設問では、「参加させたいが、感染が心配なため控える」と回答した方が38%だった。参加自粛を解除した場合、例年どおりの参加人数には戻らないのではと考える。
- ・ 感染症対策について、保護者アンケートでは「十分な対策が取られている」という意見が半数ある一方で「どのような感染症対策をしているのか知らない」という意見が4割程度あった。今後周知を図る必要がある。
- ・ 結果は17校の平均値で、ココフレンドによってばらつきがあった。それぞれの現状を把握し、新型コロナウイルス感染症対策を継続し、制限の緩和を検討していく。

○ コーディネーター及びスタッフアンケートについて

- ・ スタッフの年代は、直営校では60代及び70代が過半数を占めている。地域の高齢者に御協力をいただいていることが窺える。
- ・ 感染症対策では、大多数が「十分な対策をしていると思う」と回答してる。
- ・ 時給についての設問では、直営校は56%がちょうどよいと回答し、42%が低いと回答した。時給は今年度850円から926円に引き上げし、来年度も増額見込みである。
- ・ ココフレンドに参加したことでの変化について、「地域の子どもへ意識を向けることになった」や「子どもの居場所づくりに関する意識や関心が高くなった」という回答が多かった。

**委員長**

- ・ 報告事項が多いので、アンケート内容は厳選するとよいのではないか。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策について、どのような感染対策をしているか知らないと回答した保護者が4割だった。保護者が学校現場を見る機会が減っているため、不安に思うのではないか。啓発しておく必要がある。

**委員**

- ・ 学校は、国や県のガイドラインやマニュアル等に応じて対応を行っている。マスクの着用は原則となっている。ぜひお願いしたい。
- ・ 教育委員会で、小中学校における新型コロナウイルス感染症対策の啓発動画を作成し、YouTube等に掲載する予定である。
- ・ 感染者が出た場合、保健所からの指示では、15分間以上対面で過ごす濃厚接触者になるようだ。濃厚接触者と特定されると2週間の出席停止となる。ソーシャルディスタンスの徹底や短時間の活動で、濃厚接触者とならないような対策をお願いしたい。

**委員** 学校とココフレンドの感染症対策は異なる部分がある。ココフレンドは限られた場所で活動しているため、より一層の感染症対策が必要だ。保護者に誤解を与えないように啓発していく必要がある。

**委員長** スタッフの時給に関する設問で、直営校と委託校の回答に10%の差異があった。時給の差について事務局はどのように考えているか。

**委員** 直営校のスタッフは有償ボランティアであるとの考えで運営をスタートした。実際は就労に近い状況であることを鑑み、現在は埼玉県最低賃金に合わせている。委託校との価格設定に差はあるが、ある程度近づけることができるよう、努力していきたい。

**委員長** 同一労働、同一賃金の考え方が浸透しているため、ぜひお願いしたい。

(3) 子どもの放課後居場所づくり事業実施要綱改正（案）について**資料3**（説明：藤田主任）（資料30頁）

- ・ ココフレンドの児童が加入する保険を変更するため、実施要綱の一部改正を行う。
- ・ 年間保険料500円のみ保護者に負担を求め、ココフレンドを運営してきたが、令和3年度からは保険料及び教材費として、登録料1,000円を保護者に負担していただくこととする。それに伴い、要綱第10条及び11条を改正する。
- ・ 活動中の児童が使用する教材消耗品に係る費用は、市が負担してきたが、

受益者負担の観点から、登録料として保護者にも負担をお願いすることとした。

**委員** 教材費部分は、各ココフレンドで会計報告をする必要があるか。

**事務局** 1,000円は参加費として徴収する。各ココフレンドで教材費部分の会計を報告することは求めない。

**委員** 現在、市直営の11校について、各ココフレンドへ助成金5万円が支給されている。今後この5万円は登録児童数に応じた金額となるのか。

**事務局** 助成金は継続していく。登録児童数に応じた助成額とすることは考えていないが、今後各ココフレンドと協議をしながら考えていきたい。

**委員長** 保険の充実は、ココフレンドの運営にとって必要である。

教材費という文言が誤解を招くことがないようにした方がよい。

(4) その他（説明：向山主事、藤田主任）

○ 緊急時対応マニュアルの改正について

現在各ココフレンドから集まった活動中のヒヤリハット事例を取りまとめている。1月のコーディネーター会議で、緊急時対応マニュアルの内容を検討していただき、来年3月に改正を予定している。

○ 今後のスケジュールについて（資料35頁）

資料を基に今後の予定について説明した。

**委員** 新座市財政非常事態宣言を受けて、ココフレンドの継続に影響はあるか。

**委員長** ココフレンドは、国の「新・放課後子ども総合プラン」に基づいた事業である。そのため、事業の継続自体に直接影響はない見込みである。

4 閉会（五味主事）